

学校という集団生活では生きづらい

- ・子どもたちにとっては、学校の賑やかな体育の時間と違って「**マンツーマン**」で先生の指示も聴き取り易く、安心して落ち着いて楽しく運動できる場所になっている。
- ・保護者にとっては子どもが楽しく通える、**決まった時間に通える**ところがあることがとても助かっている。家にこもることが多くなり生活が不規則になりがちなか中とても助かっている。
- ・発達特性についても学校では十分に配慮頂くことが難しいがスマイルでは都度よりそってもらえていて心強い。
- ・集団活動が苦手な学校に行けず教わる機会がどうしても減ってしまっているが、スマイルは**楽しく通えている**。**教育機会の損失を多少なりとも補える**と思っている。

学校、お家以外の**居場所**に

社会とのつながり：家族以外の大人とのコミュニケーション

- ・発達特性から人とコミュニケーションをとることに苦手さがある。不登校となったことで、学校にいれば経験できるはずの「社会」の経験が全くできないことに不安を感じていたが、利用することで家族以外の「心を少しでも開くことができる大人」を増やせたらいいなと思う様になった。
- ・学校の体育と違って、個々を見て良いところを褒めてもらえており、子どもたちの自信にもつながっている。このような経験の積み重ねが自己肯定感につながって、本人のパワーになってくれればよいと願っている。
- ・家の外に出て、出来ない事に挑戦する時間を持ってけると嬉しい。

挑戦する心をはぐくむ
自己肯定感を高める